

一第91編一 水路のまちなみと生活

郡上八幡^{*1}は水路で彩られた豊かな城下町である。豊富な湧き水に恵まれ、市内の至る所に水路が引かれている。水辺にある共同の野菜等の洗い場の設えを見れば、いまだにその水とともに暮らしが営まれていることがわかる。山口の平らな扇状地にできた萩のまちとは異なり、同じ水の町でも勾配の険しい郡上八幡では、水の流れの表情が違う。空気が違う。それは中国の麗江とも似て非なる空間の質であることに気付く（第79編参照）。



写真91-1 郡上八幡の街並み

現在の行政区域で言う郡上市は長良川の上流に位置し、「宗祇水^{*2}」に代表される清冽な水と、夏の「郡上おどり」でよく知られている。特に郡上八幡北町の城下町を中心とした14haに及ぶ地区は、町家群が水利施設と一体となって歴史的風致を今に伝えていると評価され、国の重要伝統的建造物保存地区に指定された。それに先だち、岐阜県内では近傍に位置する美濃市^{*3}の「うだつのあがる歴

*1 郡上八幡：郡上市八幡町。郡上地域の中核を担う。

*2 宗祇水（そうぎすい）：岐阜県郡上市八幡町本町にある湧水。1985年宗祇水として名水百選第1号に指定された。

*3 美濃市：郡上市に隣接する歴史的風致地区。



写真91-2 京町屋を忍ばせる坪庭

をそぞろ歩けば、古い家並みとその軒先に沿って、ほとぼしるように流れる水路と至る所で出会うことができる。そして、京都にもない瑞々しい独特なまちの風情を満喫することができる。なかでも柳町の家々は侍町のおもかげを残しており、隣家との境に袖壁を持つのが特徴である。そして、店舗に改造したかつての町家の内部を覗くと、まさに京の町家に通じる高度に凝縮された坪庭の美しい文化を味わうことができる。

こうして、観光化された今でも、江戸時代から変わらない地元の人たちの街並みへの誇りと愛情、そして豊かな水とともに生きる暮らしの一端を感じ取ることができるのである。

史的町並み」、「城下町飛騨高山の町並み」そして「白川郷、五箇山の合掌造り集落」などが同保存地区の指定を受けていることは周知の通りである。このように隣接する町や村が指定を受けたことも、全国であまり例を見ない。



写真91-3 水路と路地

この小京都と異名をとる城下町の旧市街地には大手町、柳町、職人町、鍛冶屋町といったかつての町名が残されている。その響きにひかれて気儘に一带



写真91-4 まちを流れる水路